

## J とフランス語—tally(#)について

西川 利男

J の原始動詞 # tally について日頃、妙な英語だと思っていたが、先日フランス語の易しい学習書[1]を読んでいたら合点がいった。

英語の辞書で tally、フランス語の辞書で taille を引くと、まず「衣服の裁断」という訳語があつて、最後に「胴、身長、大きさ」という意味が出てくる。今度は日本人なら誰でも知っている「サイズ」という語を英仏辞典で引くと、フランス語には size なる単語はなくて、taille, pointure, grandeur だけがある。

そして先の本の 136 ページ、「大きさ、小ささ」の項に、次のような記述があつた。

フランスで洋服を買おうとすると、"Quelle taille?" と言われるし、靴を買おうとすると、"Quelle pointure?" と言われる。手袋や帽子も pointure である。英語ではすべて size でよいが、この語は昔フランス語だったのに、今や英語だけになってしまった。日本人にとっても size を使ってくれたらいいのと思う。

J の # の定義も全くそのとおりだ。 K. アイバーソンの出身国のカナダというお国がらからか、あるいは数学者としてのソフィスティケートな気取りか。ちなみに数学者は  $\alpha$ ,  $\beta$ ,  $\gamma$ , …… さらにはアレフなど人の知らない文字を使いたがるものである。

お台場に来たネーティブのアメリカ人にでも、「tally という語を知っているか」と、聞いてみたいものである。

[1] 泉邦寿「フランス語の小径」p. 136、白水社(2004).